

たより

掃水まちづくり協議会

平成19年4月5日
掃水まちづくり協議会
NO. 6

第二回 掃水まちづくり協議会総会開催!

*日 時

四月十五日(日)

午後一時三十分

*場 所

J A本店三階にて

「掃水まちづくり協議会総会」を開催!

会員の皆さんは、ご近所お誘い合わせの上、どうかご参加ください。

この協議会は、掃水(掃田)地区の九つの自治会がひとつになって、地区全体の発展について考えようとして、昨年十月に設立されました。今、日本の世の中は何が正しいのか混沌とした状況が漂っています。日本中、思うようになかなか

景気が回復せず、元気がなくなっていました。この掃水校区も例外ではありません。少子高齢化が進み、昔な

がらの活気はどこかへ行ってしまう、ご近所同士の声掛けやあいさつもうんと減ってしまいました。

今のうちに、地域の活気やつながりを復活させ、自分たちで物ごとを解決する力をつけないと、高齢化の中で老人の孤立化を始め、いろんな問題が起こって、大変なことになるでしょう。

「掃水まちづくり協議会」そのような問題を解決するために昨年設立を致しました。この地域のことは地域で考え、地域を活気付けようとするものです。協議会では、元気のある掃水校区をつくろうと「みんなが元気で仲良く楽しいまちづくり」というテーマを掲げ、十九年度も引き続き次の四つの事業を推進します。

- 一、あいさつ運動の推進
- 二、掃田川のクリーン作戦の実施
- 三、掃水夏まつりの開催
- 四、校区合同防災訓練の実施

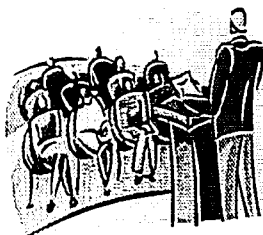
総会では、昨年の事業の反省と本年度の四事業の推進について協議をします。皆さんもご参加の上、一緒に活気のある「掃水のまちづくり」について考え

てください。

また、二時三十分か三時ごろから(協議会の状況で三十分程度)のずれが生じます。(三重中央大学短期大学の講師 丸山真名美先生の講演会を開催します。

演題は「いじめ問題と子どもへの育ちを考える」であります。

今問題になっている家庭教育や人のつながりで大切なあいさつについても話をさせていただきます。どうか、小さいお子さんをお持ちの若いお父さんやお母さんはもちろん、おじいさん、おばあさんも精々参加してください。お待ちしております。



※ まちづくり協議会では、三月十五日に東部中、二十二日には小学校にとそれぞれ出かけ、直接、生徒、児童にあいさつ励行とあいさつについての作文依頼を直接、子どもたちの顔を見て頼みました。やはり、その効果はあったようで、我々の話に真剣に耳を傾けてくれました。子どもたちは大人と違った発想で真面目にあいさつを考え

ています。今回、載せさせていただいた文は、いずれも生き生きとした子どもらしいものです。私たちの考えた中学校の原稿課題は「あいさつを進めるために、私はこう思う」、小学校は「あいさつについて私の考えていることや、していること」であります。これからも毎月(中学校は隔月)連載しますのでご期待ください。もし子どもたちからあいさつをされたら、ためらわず大きな声で返して、褒めてやってください。勿論、いろんなところで皆さんも積極的にあいさつをお願いします。

あいさつをするときの心がけ

掃水小 新六年生

豊原町 岡田みずほ

私があいさつをするとき心がけていることは、まず自分の目に入る範囲にいる人にはなるべくあいさつをすること、いつでも元気にあいさつをすることです。たまに、違う人にあいさつをしている間に他の人が通り過ぎて行ったりするけど、自分のまわりにいる人にはだいたいあいさつをします。あいさつと言っても「おはようございます。」や、「お早う。」だけではなく、「ありがとございます。」や、「さようなら。」「行ってき

「あいさつ運動を進めるために」

東部中 新三年生

伊賀町 古森千博

「おはようございます。」
「おはよう。」

近所の方にあいさつをしながら自転車走らせませす。あいさつを返してもらった時に少しづつ元気をもらいます。中には「気をつけてなあ。」、そう言ってくれる方もいて、ますます自転車をこぐのにも力が入ります。あいさつを交わすことは、とても気持ちのいいことです。わたしは、全く気になりません(うらへ)



せんでしたが、あいさつ知らない人にするに抵抗を感じるという人がいます。勇気がいるから・・・という気持ちも分かります。でも、最初の一步だと思うのです。「今日、家を出て、出会った人に絶対にあいさつをしよう!」と、決めて出かけることもいいことだと思えます。顔見知りの近所の方から始めて、自信を付けていくという方法もあります。声に出してというのが恥ずかしいというのであれば、会釈からはじめてもいいと思います。あいさつは、してもらったのもいいですが、大きな声で自分からするととも気持ちがいいです。

親子でこんにやく作り

保健福祉部主催 (3/4)
ワークセンターにて開催

こんにやく作りに参加して

伊賀町 小嶋 起世子

まるで初夏を感じさせるような陽気の日、「こんにやく辛からこんにやくを作る会」に参加さ

せていただきました。会場には、遠方にもかかわらず経験豊かなベテランの方から私のような全く未経験なものや子どもたちも含め、たくさんの方々が参加されておりました。調理は六班に分かれ、始まりました。JAの方のご指導の下、こんにやく辛をミキサーにかけ、水を入れて力強く混ぜると徐々に固まっていくのが面白く嬉しくなりました。ボールをもつ人、混ぜる人、それをのぞき込む人、「あつ!白くなってきた。」「固まってきた。」と、子どもも大人も「おいしいこんにやくを作る。」という同じ目的で楽しくがらばりましました。まん丸でつるつるに仕上げたこんにやくを田楽にしました。手作りのこんにやくはやはり、手作りのこんにやくはやはり、お味憎が良い味でおいしく頂き、とても楽しいひと時を過ごすことができました。

私事ですが、十四年前にこの樽田に引っ越してまいりました。当時はお勤めをしていた関係上、地域の行事にあまり関心がありませんでしたが、退職を機会に地域の皆様と仲良くして頂かなければと思うようになりました。ボランティアに参加することにより、少しずつ地域になじんでまいりました。今、「掃水はつらつクラブ」の一員としてクラ

ブのスローガンである「世代を超えて元気で笑顔で暮らせる町」に対して少しでもお手伝いできたらいいなと思っっています。地域の行事に参加することにより、お知り合いも増えました。今日も、こんにやく作りで一緒にさせていただいた方と仲良くなりました。また、スーパーや街角でお会いしたとき「こんにゃくは。」と挨拶のできる方が増えたことを嬉しく思っています。



孫と共に参加して

豊原町 松尾 まつ

(その一)

私の孫(有香)は毎日の幼稚園の送り迎えも何もかも、たとえ母親が家にいても、おばあちゃんとならなければいけないこと、何をすることも私と一緒にです。

今回のこんにやく作りも当然私と一緒に、付いていくと言っ

て聞きません。心配もありましたが、やつぱり二人で参加をさせていただきました。私は小さいときから母親がよくこんにやくを作っているのを見ていました。当時のこと(幼い私の手にも乗らないような大きい、熱いこんにやくの皮をお母ちゃんと一緒にむいていたこと)を懐かしく思い出しながらの作業でした。今回の作業は皆が手間取らないようにあらかじめ辛の皮をむいて茹でてあったので大変助かりました。

みんなと「わーわー」言っている作業をしていると時間の経つのは早いものです。孫、有香も知らないおばあちゃんたちに可愛がられて楽しそうでした。おばあちゃん達から、「有香ちゃん触ってみな。」と言われ、つるんつるんのこんにやくに何度も何度も触らせていただき気持ち良かったように、家に帰ってからおじいちゃんたちに何度も話していました。最後にみんなと一緒に食べて、できたの田楽をおいしく食べることができました。



なるとこんにやくを作ろうと何度も言ってきます。「こんにやくにはこんにやく辛がいるの、近くには売ってないので、また飯高町へ行って買おうな。」といっただけです。みんなと一緒に作ってのものづくりがこんなに楽しいとは思ってもみませんでした。出会えた皆さんに感謝をしながら、これからは大いに参加をさせていこうと思っっています。その節はよろしく。もちろん、孫と一緒にです。

(その二)

みどり苑 作野 幸子

子どものこんにやく作りと違い、気軽に参加したので、年配の方ばかりで迷惑を掛けてしまいました。子どもにはこんにやくにもたくさん触れさせていいただきました。後で、皆さんに迷惑を掛けましたと、挨拶すると、「若い人に来てもらえると楽しくなるからまた参加してね。」と言っていたので、本当に楽しい時間を過ごさせてもらいました。

掃りには、子どもの手形のついたできたのこんにやくを頂き、夕食の一品にあつあつの田楽を出すことができました。味はもちろんおいしいのですが、家族の会話が弾み、心温まる夕食になりました。